

大規模災害の写真展および防災訓練の開催結果

防災道の駅「朝霧高原」における防災機能の強化方策

- 南海トラフ巨大地震発生時の広域応援部隊の進出、広域物資の輸送の防災拠点として必要となる、運営資材の備蓄や現地対策本部として運用が可能な空間を有する防災倉庫、占用的に活用可能な駐車場を整備
- あわせて、手狭で老朽化した施設に分散配置されている除雪機器を集約



広域的な防災拠点としての施設機能・体制の評価

	必要機能・体制	評価	対応
施設(ハード)	耐震化	○	
	無停電化	発電量の増強、72時間対応が必要	⑤
	通信設備	○	
	貯水タンク(給水施設)	貯水量の増強が必要	③
	防災トイレ	○	
	ヘリポート	○	
	防災倉庫	防災拠点としての運営資材の備蓄倉庫が必要	①
	進出拠点(警察) 広域物資輸送拠点(代替拠点)	防災拠点自動車駐車場制度を活用した活動スペースの確保が必要	②④
雪寒基地	除雪機械の車庫、会議スペース、作業員の詰所が必要	①	
体制(ソフト)	BCP策定	○	
	災害協定	○	
	防災訓練	○	
	感染症対策	○	



【概要】大規模災害の写真展

○東日本大震災などの大規模災害の記録写真と被災遺物を展示し、災害記録の継承を図ることを目的に、道の駅「朝霧高原」の多目的広場でとともに、大規模災害の写真展を開催。
 ○併せて防災技術の展示を実施。

■ 概要

期間: R4.9.16(金)～R4.10.16(日)
 場所: 道の駅「朝霧高原」多目的広場



■ 開催状況



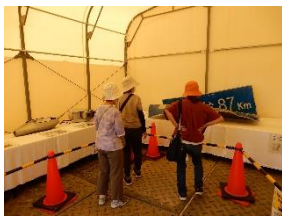
会場: 大規模災害の写真展



会場: 防災技術の展示



大規模災害の記録写真



東日本大震災の被災遺物



東日本大震災の被災遺物



空気制水器



自由販売機



Save the Children※

※被災地で不安・ストレスを解消緩和できるおもちゃ

【アンケート調査】大規模災害の写真展

○①大規模災害の写真展による防災意識の向上に係る効果検証、②道の駅「朝霧高原」に求められるニーズの把握を目的に、道の駅「朝霧高原」利用者を対象としたアンケートを回収。
 ○回収に当たり、調査員による対面調査と、写真展の開催期間中に会場内にて調査票の留め置きを実施。

■調査日時

対面調査：R4.10.2(日)10:00～17:00
 留め置き：R4.9.16(金)～R4.10.16(日)

■回答数

	対面調査	留め置き	合計
写真展を見た	35	24	59
写真展を見ていない	194	0	194
無回答	0	1	1
回答数	229	25	254

回答者のうち、「写真展を観覧した」と回答したのは59名(23%)

■調査実施状況

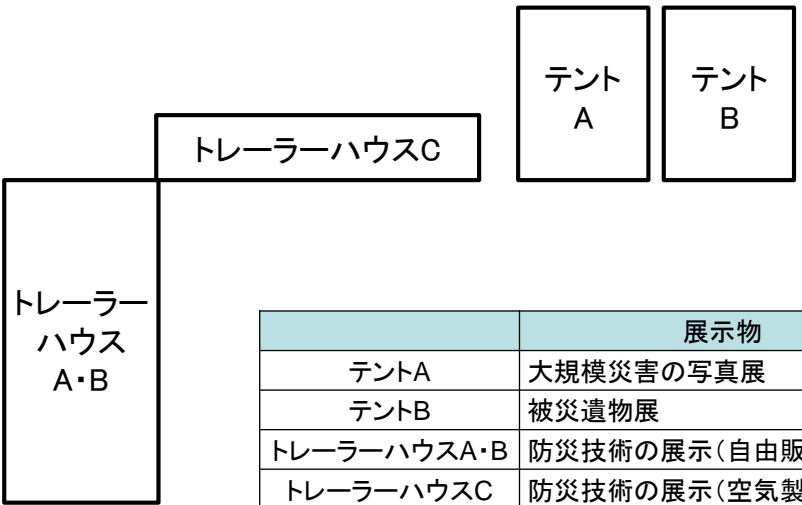
対面調査



留め置き



■イベント施設の配置状況及び展示内容

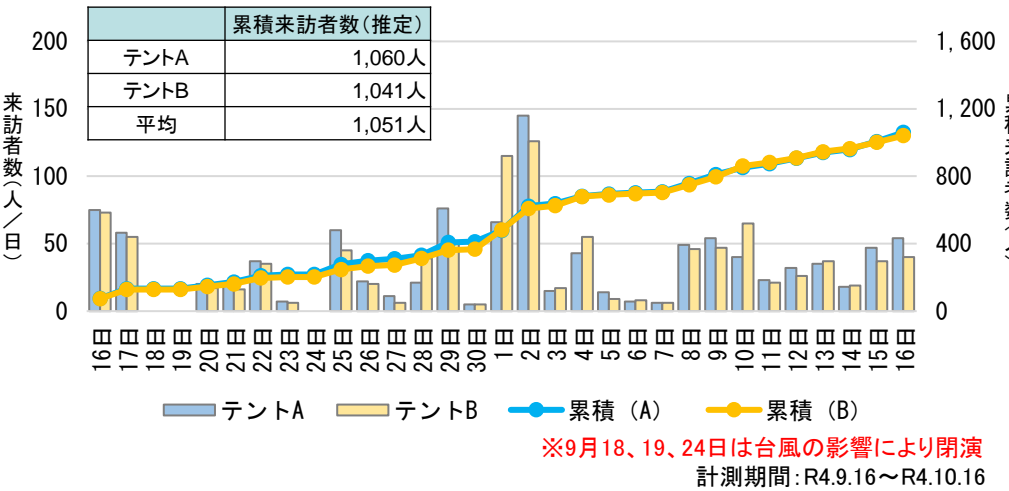


	展示物
テントA	大規模災害の写真展
テントB	被災遺物展
トレーラーハウスA・B	防災技術の展示(自由販売機等)
トレーラーハウスC	防災技術の展示(空気製水機等)

【調査結果】大規模災害の写真展

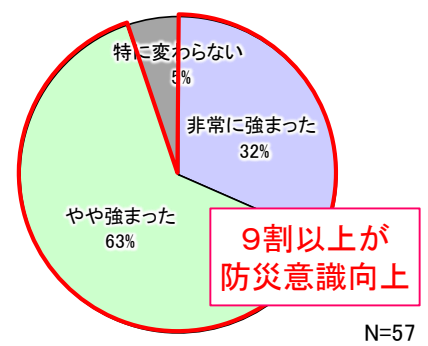
○大規模災害の写真展開催期間中、大規模災害の写真展及び被災遺物展には推定約1,000人が来訪*。
 ○「他人事ではない」、「備えが必要」などの感想が見られるなど、来訪者の防災意識の醸成に寄与。
 ○回答者の約9割が震災伝承施設への訪問歴がないものの、来訪需要は高い。

■大規模災害の写真展(テントA)及び被災遺物展(テントB)来訪者数



■アンケート結果

Q. イベントを通じて
防災意識は高まりましたか？



■来訪状況



大規模災害の写真展(テントA)

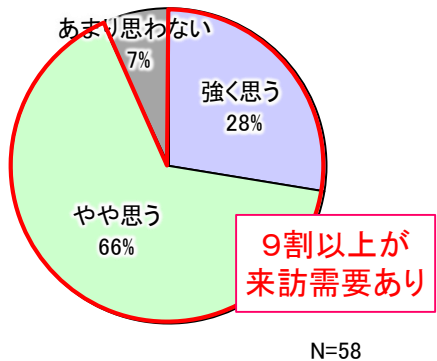
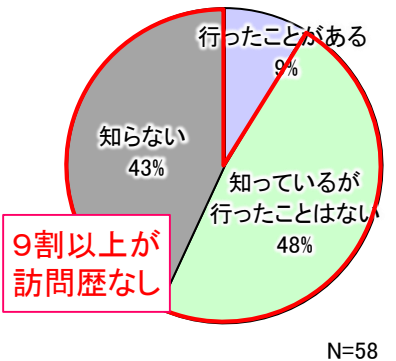


被災遺物展(テントB)

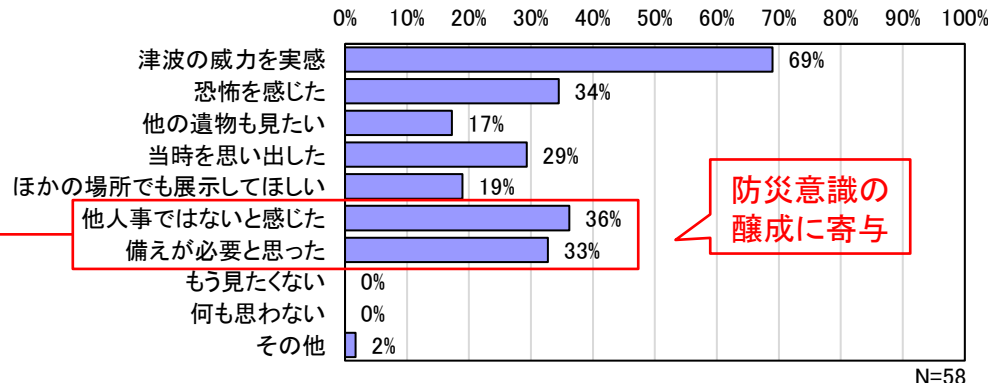
■アンケート結果(震災伝承施設について)

Q. 訪問したことはあるか？

Q. 行ってみたいと思うか？



Q. 被災遺物を見た感想【複数回答】

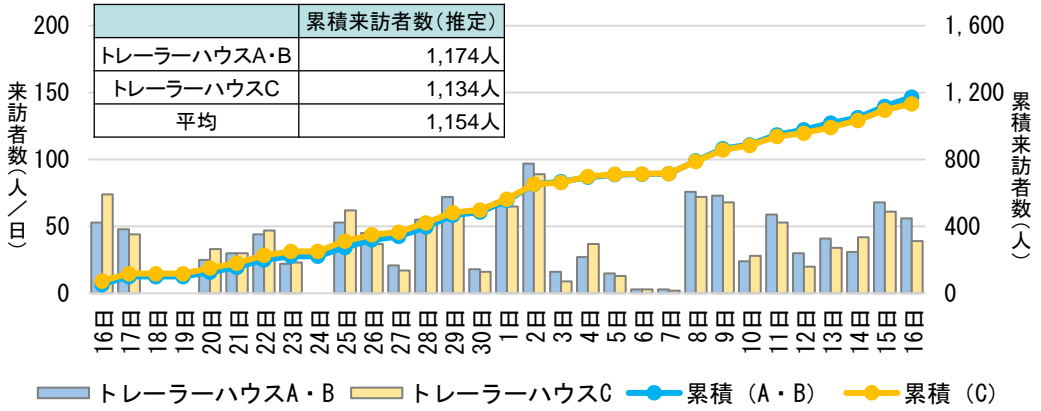


【調査結果】防災技術の展示

○大規模災害の写真展開催期間中、防災技術展示を行ったトレーラーハウスには推定約1,200人が来訪*。
 ○回答者の約2割がイベントにおける展示の中で、防災技術の展示が最も印象に残ったと回答。
 ○なかでもトレーラーハウスや蓄電池が印象に残ったと回答。

※推定来訪者数はトレーラーハウスA・B、トレーラーハウスCの平均より

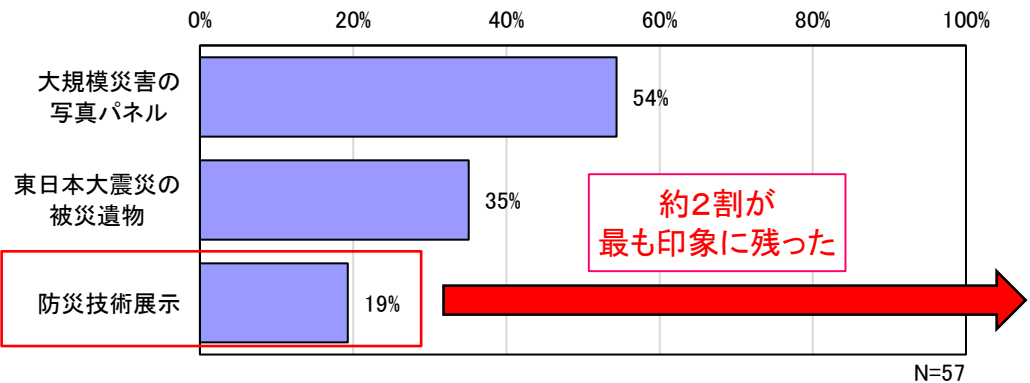
■防災技術の展示(トレーラーハウスA・B、トレーラーハウスC) 来訪者数



※9月18、19、24日は台風の影響により閉演
 計測期間: R4.9.16~R4.10.16

■アンケート結果

Q.展示の中で最も印象に残った展示は何か？【複数回答あり】



■来訪状況



トレーラーハウス



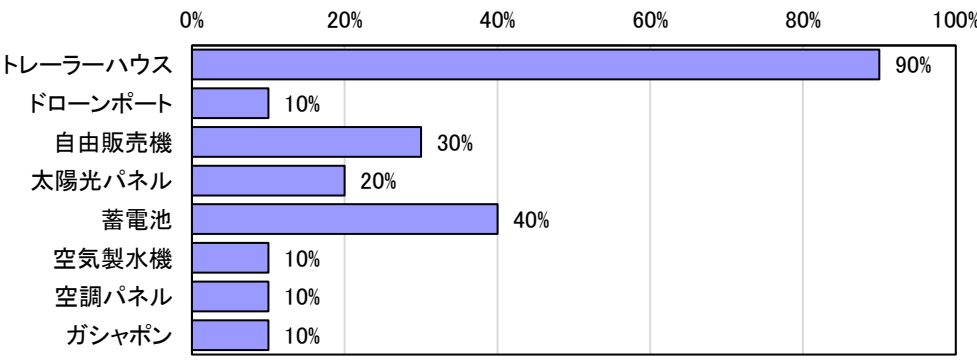
蓄電池



自由販売機



ドローンポート

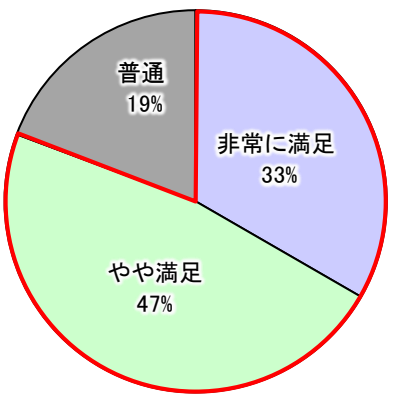


今後の防災イベントにあたってのニーズ

○今回のイベントについては、約8割の回答者が満足と回答。
 ○今後、防災イベントを開催した際の展示内容として、「防災グッズ・非常食の展示」のニーズが高い。
 ○また、イベントの開催地や開催方法についても意見が出るなど、防災イベントの開催に向けたニーズも高い。

■ 今回のイベント評価

Q. 今回のイベントの満足度

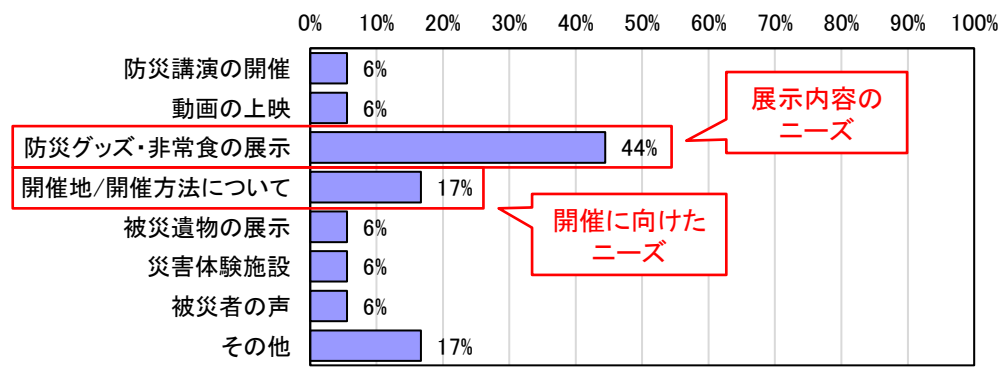


約8割が満足と回答

N=57

■ 今後の防災イベントニーズ

Q. 同様の防災イベントを開催した場合に希望するものは？



展示内容のニーズ

開催に向けたニーズ

N=18

<開催地/開催方法についての要望>

- 来年は関東大震災発生から100年のため震源である足利エリアや小田原エリアで開催してほしい。【50代男性】
- 富士宮市内(市街地)で開催してほしい。【10代女性】
- キャラバンで各地を巡るのはどうか。【60代男性】

防災訓練の開催結果

○地域振興施設が保有している防災機能を、迅速かつ円滑に機能させることを目的に、関係機関と連携して防災訓練を実施。
○今後、南海トラフ地震や富士山の大噴火などを想定し、広域的な訓練の実施を予定。

- 実施日時 令和4年9月22日(木) 10:00～12:20
- 参加者 32名
株式会社富士山(15名)、富士宮市(4名)、静岡国道事務所(7名)
静岡県(2名)、静岡県警察本部(1名)、富士宮市消防本部(3名)
- 訓練内容 (1)安否確認、避難誘導 ※来訪者の安全確認と被災状況確認
(2)設備被災点検 ※施設の被災状況確認
(3)被災状況伝達 ※関係機関との被災状況共有(情報伝達)
(4)非常用発電機の確認、災害用トイレの設置、消火訓練



負傷者搬送の様子



非常用発電機の確認



災害用トイレの設置